

公益社団法人日本看護科学学会
平成 26 年 11 月社員総会 議事録

日 時：平成 26 年(2014 年)11 月 28 日(金)17:30～19:30

場 所：ANA クラウンプラザホテル グランコート名古屋 5 階 ローズルームⅡ
(名古屋市中区金山町 1-1-1 TEL: 052-683-4111)

総社員数：202 名

出席社員数：147 名(会場 59 名、委任状 88 名)

会場出席者：社員(代議員)

田村やよひ理事長、安酸史子副理事長

麻原きよみ、萱間真美、グレッグ美鈴、酒井郁子、高橋眞理、宮崎美砂子、山本あい子、
吉沢豊予子、和住淑子

(以上11名、理事)

小島操子、近藤潤子

(以上2名、監事)

明石恵子、浅野みどり、安藤詳子、池添志乃、石井邦子、植田喜久子、上野栄一、
及川郁子、大島弓子、大津廣子、大西和子、小笠原知枝、小田正枝、片田範子、
鎌倉やよい、北原悦子、國方弘子、小西美智子、坂下玲子、佐藤まゆみ、佐藤富美子、
新道幸恵、鈴木志津枝、田中京子、谷本眞理子、玉木敦子、筒井眞優美、永井優子、
中尾久子、長戸和子、中村恵子、奈良間美保、野口眞弓、野地有子、野並葉子、
早川和生、東 サトエ、福井トシ子、牧本清子、町浦美智子、松田たみ子、百瀬由美子、
森下利子、森下安子、山田律子、渡邊順子

(以上 46名)

理事(非代議員) 武田祐子、中山洋子

名誉会員 稲岡文昭

議 長：田村やよひ(理事長)

議事録作成者：高橋眞理(総務担当理事)

I. 開会

開会時、会場出席社員数48名(うち理事・監事13名)、有効委任状88名、総計136名であり、全代議員202名の過半数であるため、定款第23条および第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会の平成26年11月社員総会は成立した。司会は安酸副理事長、書記は立岡弓子(滋賀医科大)、藤本 薫(東京医科大学)で行なわれた。

II. 理事長挨拶

田村やよひ理事長より、以下の挨拶があった。

本日の第5回理事会にて鎌倉やよい会長より、明日からの第34回学術集会について順調に準備が進んでいるとの報告があった。2日間、盛会となることを祈っている。この社員総会では本年度の取り組みについてご報告していきたい。中でも研究・学術情報委員会と学術振興事業

検討委員会で協力してきた若手アカデミー事業を推進するため、「若手研究推進委員会」を設置して常置委員会とした。また看護倫理検討委員会においては、利益相反(COI)に関する指針についても検討を重ねてきた。このように新しい諸々の取り組みが進んでいることをご報告していきたい。なお、平成27年度の事業計画および予算案、第37回学術集会会長の人選についても報告し、ご審議いただきたい。

Ⅲ. 第34回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

鎌倉やよい第34回学術集会会長より、以下の挨拶があった。

事前登録は2,400名を超えている。通常、事前登録の2倍の参加者が見込まれるため、多くの参加者に対応できるように準備を進めている。演題登録は886で、うち2件の取り下げがあった。演題のうち、English sessionが25演題、交流集会が53演題で、交流集会の1演題はEnglish sessionである。社員の皆様、理事会、本部事務所のご支援のもと、ここまで進めることができた。御礼を申しあげるとともに、実行委員・企画委員・ボランティア一同、心をこめておもてなしする所存であり、開催に向け、一層のご協力・ご支援を賜りますよう、お願い申しあげたい。

Ⅳ. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第22条3項に従い、田村理事長が議長に選出された。

会場出席者から議事録署名人を募ったが立候補がなかったため、議長より代議員の及川郁子氏(聖路加国際大学)と大津廣子氏(愛知県立大学)の2名が推薦され、満場一致により承認された。

Ⅴ. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告 <田村理事長>

議案書(pp2-6)に基づき、以下の報告があった。

第2回理事会までは6月定例社員総会で報告しているため、第3回理事会以降の報告を行なう。

第3回理事会にて第34回および第35回学術集会の準備状況、第37回学術集会会長の候補者選出が行なわれた。また「代議員及び役員候補者選出に関する申し合わせ」の改正案を検討し、学会総会での選挙に関する報告は総務担当理事が行なうこととした。

第4回理事会でも学術集会準備状況が報告され、第37回学術集会会長が承認された。国際活動推進委員長が世界看護科学学会(WANS)の国際会議に出席する際の経費が不明確であったため、「会計に関する申し合わせ」を改正して、委員会経費より使用できることとした。

第5回理事会では、若手研究推進委員会を常置委員会化する「定款施行細則」の改正が承認された。平成27年選出役員候補者選挙における理事候補者の「理事会が定める定数」について、従来通り、選挙で11名の候補者を選出してほしい旨を選挙管理委員会へ伝えることが承認された。

6月定例社員総会については、代議員202名のうち156名の出席(うち委任状86名)で行なわれ、平成25年度決算の報告と承認という重要な審議があった。また、「定款施行細則」の改正案が承認され、第2条第3項について、正会員の会費配分率をこれまで「40%を公益目的事業に充当し、60%を法人運営管理費用に充てる」としていた規定を「30%以上を公益目的事業、70%以内を法人運営管理費用」と変更し、具体的な配分率は事業年度ごとに決算を見ながら、理事会審議により定めることとした。学術集会における収益増に対応し、費用を公益目的事業に弾力的に使用できる仕組みとなる。

2. 総務報告 <高橋理事>

議案書(p1)の代議員名簿は選出時における地区別記載となっているが、本社員総会の座席は「代議員選出規程」の改正(地区別区分と名称の一部変更)に伴う配置にしている旨の説明があった。

議案書(p7)に基づき、以下の報告があった。

会員数の推移については、平成 26 年度の入会者は 829 名であり、うち新規入会が 730 名、会費未納による資格喪失者の再入会が 99 名であった。10 月 31 日現在の正会員 8,013 名、名誉会員 13 名、賛助会員 5 件、会員総数 8,031 名である。正会員数は平成 22 年度より、毎年平均 400 名ほど、増加している。

3. 委員会活動報告

議案書(pp10-17)に基づき、各担当理事より以下の報告があった。

1) 第 33 回日本看護科学学会学術集会開催 <高橋理事>

会員管理についてはオンラインシステム、会員自身のマイページ利用ともに順調に稼働している。また会員メールアドレスの登録状況は 7,612 件であり、約 200 件がメールの到着が不確定のため、引き続き追跡調査を行なっている。会員数が 8,000 名を超え、事務所運営の効率化・適正化を図るため、事務所業務内容の再検討を始めている。

2) 和文誌編集委員会 <萱間理事>

「日本看護科学会誌」は今年度よりオンラインジャーナルのみとなった。但し、来年 1 月頃に 4 冊合本版をお届けする予定で、これが最後の冊子体となる。なお今後、紙媒体を希望する方への対応策として、受益者負担の冊子体について検討中である。また、今年度の投稿論文は受理後すみやかにオンライン掲載されている。2015 年 4 月からは完全オープンアクセスとなる予定で、それに向けて準備中である。投稿数は年々増加がみられており、今年度はすでに 57 本の投稿がある。なお、専任査読者の質の向上を目的としたセミナーや交流集会を開催する予定である。

3) 英文誌編集委員会 <グレッグ理事>

Holzemer 編集長来日のもと対面の編集委員会を 1 回、Web 会議システムによる日本語での編集委員会を 1 回開催した。冊子体最終号となる JJNS, Vo.10, No.2 を 7,640 名に頒布し、Vol.11.1~3 をオンラインで発刊した。2013 年 10 月には啓発活動としての JJNS セミナーを開催した。2013 年の impact factor は 0.488 と若干低下した。

非会員の投稿料について委員会および理事会で検討してきた。JJNS への投稿は 210 編ほどあるが、日本人の投稿は 30 から 40 編ほどである。投稿料を課すことで投稿数に影響を与える可能性があり、かつ日本人の投稿だけでは論文数が確保できないことが予測される。検討の結果、筆頭著者が非会員の論文で印刷仕上がり 11 ページを超過した場合、1 ページにつき 1 万円の料金を課すことに決定した。

なお、2015 年の若手研究者支援事業(英文校閲費助成)の募集期間は 2 月 2 日から 4 月 30 日までとし、採択論文の発表は 5 月 14 日に学会ホームページで行なう予定である。

4) 研究・学術情報委員会 <吉沢理事>

第 4 回 JANS セミナーを 6 月の定時社員総会に併せて実施した。第 5 回 JANS セミナーについ

て、ミックスドメソッドをテーマに 企画中である。JANS セミナーは早く定員数に達するため、Web 配信を検討中である。

「若手看護系研究者調査」を基に JJNS に投稿した。海外からの問合せもいただいている。

JANS 若手アカデミーについて若手研究者のメーリングリストを作成し、情報交換などの活動が開始され、第 34 回学術集会における交流集会が企画されている。

看護系学会等社会保険連合について、平成 26 年診療報酬改定において同連合が提出した要望書の 35 項目中 9 項目、医療技術提案書 23 項目中 4 項目を実現できた。また「平成 27 年度介護報酬改定に向けての要望書」を本年 8 月に厚生労働省・老健局に提出した。

5) 国際活動推進委員会(世界看護科学学会を含む) <中山理事>

異文化看護データベースを見直し、情報の更新や修正を行ない、より活用しやすくするための検討をしている。また看護学のグローバルスタンダードや国際看護学教育のあり方について討議している。

世界看護科学学会(WANS)学術集会が2015年10月にドイツのHannoverで開催される。お手元のフライヤーをご確認いただきたい。また、WANSの会員拡大に向けて、日本、タイ、中国、インドネシアの学会や関連団体と連絡をとっている。

6) 看護学学術用語検討委員会 <安酸副理事長>

担当の小板橋理事が欠席のため、安酸副理事長より以下の報告がなされた。

継続的に用語の検討を進めていくために必要な学術用語維持・管理システムの構築を目指して、組織案づくりを進めている。また、過去の学術用語に関する成果物への問合せに対応している。

7) 看護倫理検討委員会 <麻原理事>

和文誌投稿規程における利益相反に関する記載について検討し、和文誌編集委員長に提案した。また、本会における利益相反の取り扱いについても検討した。看護系大学および病院看護部の研究倫理審査委員会で扱う研究計画の種類と審査基準、および審査体制について文献検討および専門家へのヒヤリングを実施、分析した。第 34 回学術集会において、若手研究者のための研究倫理に関する交流集会を企画した。

8) 社会貢献委員会 <武田理事>

社会貢献委員会は学術集会開催校の方を構成員に加えて運営しているが、次年度の活動の継続性を考慮し、委員の交代に合わせて増員している。第 34 回学術集会における市民フォーラムのテーマは「“口から食べる”を支える技術—食べる幸せを繋ぐ看護のわざり—」としている。また、高校生を対象としたナーシング・サイエンス・カフェでは 26 名の事前登録がある。

9) 表彰論文選考委員会 <宮崎理事>

表彰論文の選考にあたり、昨年度に発行された和文誌、英文誌の中から原著論文、研究報告、オリジナルアートを対象とした。委員会で対象論文リストを作成し、全代議員 202 名に対し文書とメールで採点を依頼した結果、60 通の返信があり、回収率は 29.7%である。60 通の評価点の集計に基づき最終選考を行ない、優秀賞 2 編、奨励賞 2 編を決定した。第 34 回学会総会にて表彰する

予定である。表彰論文の審査に全代議員が参加する方式は、本会ならではの方法である。今後、よりアプローチしやすい論文審査方法について検討を重ねていきたい。

〔選考結果〕

【優秀賞】

○(原著論文)中村幸代, 堀内成子, 柳井晴夫(2013):

妊婦の冷え性と微弱陣痛・遷延分娩との因果効果の推定—傾向スコアによる交絡因子の調整—,
日本看護科学学会誌、32(4),3~12.

○(original article)Kiyomi ASAHARA, Wakanako ONO, Maasa KOBAYASHI,
Junko OMORI, Yumiko MOMOSE, Hiromi TODOME and Emiko KONISHI(2013):
Ethical issues in practice: A survey of home-visiting nurses in Japan,
Japan Journal of Nursing Science, 10(1), 98~108.

【奨励賞】

○(研究報告)平野優子, 山崎喜比呂(2013):

侵襲的人工呼吸器を装着した筋萎縮性側索硬化症患者の病い体験—ライフ・ライン・メソッドを用いた心理的状态のたどる過程と関連要因—,
日本看護科学学会誌、32(2), 29~39.

○(original article)Yoshino WATANABE, Makoto OE, Yukie TAKEMURA,
Minako SASAKI, Mami ONISHI, Katsuya KANDA and Hiromi SANADA(2013):
Four factor Research Awareness Scale for Nurses in Japanese:
Instrument development study, Japan,
Japan Journal of Nursing Science, 10(2), 232~241.

10) 広報委員会 <酒井理事>

今年度より学会ホームページに取材申込みバナーと記入ページを設けたこともあり、第34回学術集会への取材申込みが例年より多い。学術集会および本部主催行事などの記録のため、今年もカメラマンに撮影を委託している。

11) 研究倫理審査委員会 <田村理事長>

審査すべき事案が申請されなかったため、委員会は開催されなかった。

12) 災害看護支援事業専門委員会 <山本理事>

災害看護支援金による助成事業に20件の応募があり、うち8件を採択した。事業名と代表者は議案書(p15)に記載の通りである。第34回学術集会での交流集会にて、これまでの採択事業から3件を選んで報告を行ない、本事業の認知度の向上と継続的な支援促進を目指す。また今回の「ワンコイン募金」は社員総会、学会総会、災害関連の交流集会の会場に限定して行なう予定である。

13) 学術振興事業検討委員会 <田村理事長>

若手研究推進委員会を立ち上げ、来年春までに本委員会と学術振興事業検討委員の合同会議を行なう予定である。昨年の社員総会にて、学術集会における英語セッションを増やしていくべきという話があったが、第34回学術集会では25演題の英語セッションが組まれており、ご協力いただいた皆

様に御礼を申しあげたい。

14) 他機関との連携活動 <安酸副理事長>

①日本看護系学会協議会

田村理事長が総会に出席して意見交換を行なった。これらの意見をもとに定款等を整備し、年内に再度、総会が予定されている。また、第34回学術集會にてシンポジウムを開催予定である。

②看護系学会等社会保険連合

4) 研究・学術情報委員会にて報告済み。

③日本学術会議

④その他の機関

以上について、議案書(pp16-17)に基づき報告された。

15) 選挙管理委員会 <高橋理事>

今年度は代議員選挙が電子投票にて行なわれる。平成26年9月8日公示、平成27年1月13日から27日で投票受付、1月29日に開票となる。引き続き、役員候補者選挙が平成27年3月2日公示、3月16日から29日に電子投票受付、3月30日に開票となる。

以上の報告後、会場からの質問を受け付けた。

[質疑応答]

・「若手研究者」の若手の定義を教えてください。

→若手アカデミー発足の際、メーリングリスト作成にあたり「45歳未満」とした。

V. 審議事項

1. 平成27年度事業計画案の承認 <田村理事長>

議案書(p18)に基づき、以下の審議があった。

例年の事業に加えて、和文誌のオープンアクセス化、学術活動の利益相反(COI)に関する指針および細則の施行、若手研究推進委員会の設置などの新しい事業を行なう予定である。

以上について、原案通りで承認された。

2. 平成27年度事業予算案の承認 <和住理事>

議案書(pp19-23)に基づき、以下の審議があった。

平成27年度収支予算書について、事業活動収入合計131,072,600円、事業活動支出合計127,127,020円を見込んでおり、事業活動収支差額は3,945,580円の黒字予算を立てている。投資活動収支では、投資活動収入合計1,520,000円、投資活動支出合計3,005,000円、収支差額1,485,000円となっている。財務活動は行っていない。予備費支出3,000,000円である。以上により、当期収支差額539,420円、前期繰越収支差額56,145,690円、次期繰越収支差額55,606,270円(配布資料では55,606,269円となっているが誤植のため訂正)である。議案書の22から23ページは内閣府提出書式で、公益目的事業、収益事業、法人会計に区分した表である。平成26年6月社員総会にて受取会費配分率の変更が認められたため、一般正味財産増減の部で、経常収益の正会員受取会費を「公益目的事業:法人会計=3:7」としている。従って正会員受取会費を公益目的

事業に 25,620,000 円、法人会計に 59,780,000 円を配分している。当期一般正味財産増減額の公益目的事業計は赤字となり、収益事業の広告販売の収益を振り替え、公益目的事業を充実させることができる予算となっている。当期一般正味財産増減額の合計は 4,289,042 円となっている。

以上について、原案通りで承認された。

3. 第37回日本看護科学学会学術集会会長の承認 <田村理事長>

議案書(p24)に基づき、以下の審議があった。

第 37 回日本看護科学学会学術集会会長として吉沢豊予子氏(東北大学)が推薦され、原案通りで承認された。

4. その他 <田村理事長>

会場からの動議と質問を受け付けた。

[質疑応答]

- ・(稲岡文昭名誉会員) 看護科学学会は 34 年目となり、これだけの活動をされていることに、まずは感謝と敬意を表したい。国内の原著論文が増えてきていることについて詳細を教えてください。
 - (萱間理事) 和文誌の原著論文は年間に 2~3 件で、原著論文がない号も発刊される状況があった。原著論文と研究報告の明確な差がなかったため、編集委員会で検討し、研究報告という種類をなくし、原著論文、短報、資料とした。
 - 研究報告と原著論文は分かりにくい点があったが、原著論文が多くなったからよいとするのではなく、内容としてどうであるか、厳しく問わなくてはならないのではないかと懸念する。
- ・(稲岡名誉会員) 社員総会で社員からの発言がないことは、本当に問題がないのか、それとも社員の問題意識に問題があるのか、疑問を持った。たとえば研究倫理審査委員会があるが、会員の所属先にも倫理審査委員会がある。予算をとることも含め、倫理審査委員会の意義についても検討が必要ではないだろうか。研究計画書が倫理審査を通過しても、投稿論文が倫理を厳守して作成されたのか否かを審査する方法についても今後、ご検討いただきたい。ある NICU で起きた医療ミスについて、『看護』としての声明を出すことなども学会で検討していくべき事項ではないか。
 - (田村理事長) 倫理審査委員会については、所属先に倫理審査委員会がない臨床の看護師のために必要ではないかということもあり存続している。研究計画段階での倫理だけでなく、投稿論文が倫理的に行なわれた研究であるかについて審査することも今後、検討が必要かもしれない。
 - (麻原理事) 看護倫理検討委員会では異議申し立てがあった際に対応することになっている。今年度はそのような案件がなく、利益相反に焦点を当てて検討をしてきたが、先生のご指摘のようなことも今後、検討が必要である。
- ・(筒井社員) 稲岡先生がご指摘された医療事故について、看護師は何をしていたのかを明らかにしたり、声明を出していくこと、学会の対応としてどの委員会が担うのかなど、検討が必要である。
 - (田村理事長) 看護の科学者として、どのようなメッセージを社会に発信していけばよいかなど、今後は具体的な事例をもとに検討する必要がある。
- ・(牧本社員) 和文の原著が少ないというのは、「調査」が「報告」とされる傾向があると感じることがあった。その論文の新規性を審査されているのか疑問な点がある。また、盗用防止に専用ソフトの導入を検討もよいのではないか。倫理については、学会としての指針が必要であると思う。

→(萱間理事) オリジナリティはデータもしくは分析にあるものとしている。現在はデザインだけでは判断していない。新規性をみていることもあり、原著数が増えてきていると考える。盗用防止については編集委員長、編集委員、査読者、および PDF 化時のチェックと、多くの者が投稿論文に目を通していている。どこの倫理審査を受けているか、利益相反、著者資格に関してなどを確認しているが、複数の目を通していても盗用などの可能性はあるので、ご提案についても検討していかなければならないと考える。

→(麻原理事) 倫理のガイドラインが必要というご指摘はその通りである。学会にどのような役割があるかについては、研究活動にかかわる不正行為への対応、学会の行動規範を既に示しているが、社会情勢に合わせて今後、見直していく必要がある。

・(大島社員) 学術用語検討委員会の一員として、学術用語をシステム化している。会員ではない方から「対象」という用語の使い方について投書が来たので話題提供したい。投書の内容は「対象と呼ばれた人は不快になるのではないか」という主旨であった。聞き取り調査をしたところ、「とても嫌だ」と答える人が多く、用語を取り扱うに際し、どのように用いていくべきかを検討中である。明日の交流集会で本件について話題提供する予定である。

→(田村理事長) 本件は報告を受けている。看護学分野ではない方からの投書であったが、学生のレポートに「対象」という言葉が多用されていることにも違和感があるという内容であった。本会に対し様々な方々が注目しており、今後は学際的な研究が発展していくこと踏まえを、細心の注意を持って発信していかなくてはならないと考える

以上にて、会場からの動議と質疑応答が終了した。

VI. 閉会

閉会時、会場出席社員数 59 名(うち理事・監事 13 名)、有効委任状 88 名、総計 147 名であることが報告された。

以上をもって、平成 26 年 11 月社員総会が閉会した。

平成27年(2015年)1月20日

議 長 田 村 や よ ひ ㊟

議事録署名人 及 川 郁 子 ㊟

議事録署名人 大 津 廣 子 ㊟

㊟

㊟

㊟

公益社団法人日本看護科学学会 平成26年11月社員総会 議案書

日 時 平成26年(2014年)11月28日(金) 17:30~20:00

場 所 ANAクラウンプラザホテル グランコート名古屋 5階 ローズルームⅡ
名古屋市中区金山町1-1-1 TEL: 052-683-4111

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第34回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告

2. 総務報告

3. 委員会活動報告

1) 総務委員会

2) 和文誌編集委員会

3) 英文誌編集委員会

4) 研究・学術情報委員会

5) 国際活動推進委員会(世界看護科学学会を含む)

6) 看護学学術用語検討委員会

7) 看護倫理検討委員会

8) 社会貢献委員会

9) 表彰論文選考委員会

10) 広報委員会

11) 研究倫理審査委員会

12) 災害看護支援事業専門委員会

13) 学術振興事業検討委員会

14) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

② 看護系学会等社会保険連合

③ 日本学術会議

④ その他の機関

15) 選挙管理委員会

VI. 審議事項

1. 平成27年度事業計画案の承認

2. 平成27年度予算案の承認

3. 第37回日本看護科学学会学術集会会長の承認

VII. 閉会

公益社団法人日本看護科学学会 役員・社員

(平成26年11月1日現在)

理事長 田村 やよひ

副理事長 安酸 史子

第34回学術集会会長

鎌倉 やよい

第35回学術集会会長

小山 眞理子

第36回学術集会会長

岡谷 恵子

理事：麻原きよみ、萱間 真美、グレッグ美鈴、小坂橋喜久代、酒井 郁子、高橋 眞理、
武田 祐子、中山 洋子、宮崎 美砂子、山本 あい子、吉沢豊予子、和住 淑子

監事：小島 操子、近藤 潤子

名誉会員：飯田澄美子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、兼松百合子、小玉香津子、中島紀恵子、
中西 睦子、林 滋子、樋口 康子、日野原重明、松野かほる、山崎 智子

賛助会員：(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、ヌーヴェルヒロカワ、(株)へるす出版

(以上、五十音順)

社員

【北海道】

稲葉 佳江
岡田 洋子
奥宮 暁子
近藤 潤子
中村 恵子
野川 道子
平 典子
三国 久美
山田 律子
良村 貞子

【東北】

安藤 広子
石井 範子
角濱 春美
叶谷 由佳
上泉 和子
桑名 佳代子
小林 淳子
佐藤 富美子
塩飽 仁
徳永 恵子
中村 由美子
布施 淳子
吉沢 豊予子
リボウィッツよし子

【北関東】

安梅 勅江
牛久保美津子
大塚 眞理子
岡 美智代
川口 孝泰
小坂橋喜久代
佐伯 由香
高橋 照子
田村 やよひ

永井 優子
成田 伸
縄 秀志
二渡 玉江
松田 たみ子
水野 道代
森 千鶴

【南関東】

青木 きよ子
石井 邦子
石垣 和子
大島 弓子
大室 律子
岡田 忍
黒田 久美子
近藤 まゆみ
酒井 郁子
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
諏訪 さゆり
高橋 眞理
谷本 眞理子
中村 伸枝
野地 有子
三上 れつ
宮崎 美砂子
森 明子

【東京】

山田 雅子
山本 利江
和住 淑子
秋山 正子
麻原 きよみ
有森 直子
井部 俊子
江本 リナ

及川 郁子
数間 恵子
金井 PAK 雅子
萱間 真美
河口 てる子
川村 佐和子
小松 浩子
坂本 すが
佐藤 エキ子
志自岐 康子
高木 廣文
武井 麻子
田代 順子
田中 美恵子
筒井 眞優美
水流 聡子
鶴田 恵子
野末 聖香
濱口 恵子
菱沼 典子
福井 トシ子
操 華子
宮本 真巳
山本 則子

【甲信越】

阿保 順子
内田 雅代
小林 康江
清水 嘉子
征矢野あや子
中込 さと子
堀内 ふき
渡辺 タミ子
渡辺 みどり
稲垣 美智子

【北陸】

上野 栄一
川島 和代
北岡 和代
紺家 千津子
西村 眞実子

【東海】

明石 恵子
浅野 みどり
安藤 詳子
市江 和子
大津 廣子
大西 和子
片岡 純
勝原 裕美子
鎌倉 やよい
紙屋 克子
小島 操子
小西 美智子
小松 万喜子
奈良間 美保
野口 眞弓
藤井 徹也
藤本 栄子
村本 淳子
百瀬 由美子
渡邊 順子

【近畿】

青山 ヒフミ
荒尾 晴恵
井上 智子
上野 昌江
岡谷 恵子
片田 範子
勝田 仁美
金川 克子
我部山キヨ子

北村 愛子
グレッグ美鈴
黒江 ゆり子
坂下 玲子
末原 紀美代
鈴木 志津枝
高田 早苗
高見沢恵美子
田中 京子
玉木 敦子
田村 恵子
近澤 範子
西村 ユミ
二宮 啓子
任 和子
野並 葉子
早川 和生
林 千冬
林 優子
前原 澄子
牧本 清子
町浦 美智子
山本 あい子

【中国・四国】

畦地 博子
池添 志乃
猪下 光
植田 喜久子
小笠原 知枝
小野 ミツ
國方 弘子
久保田 聰美
新道 幸恵
關戸 啓子
多田 敏子
田中 マキ子

津島 ひろ江
時長 美希
長戸 和子
中野 綾美
野嶋 佐由美
深井 喜代子
宮腰 由紀子
森下 利子
森下 安子
山勢 博彰
山田 覚

【九州・沖縄】

石原 逸子
井上 範江
宇座 美代子
浦田 秀子
奥 祥子
小田 正枝
嘉手苺 英子
川本 利恵子
北原 悦子
金城 祥教
草間 朋子
斉藤 ひさ子
田中 美智子
中尾 久子
鳩野 洋子
東 サトエ
森田 敏子
安酸 史子
矢野 正子
山勢 善江
李 節子
以上、202名
地区別・五十音順

公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 11 月 28 日)

平成 26 年度第 1 回理事会

日 時：平成 26 (2014) 年 5 月 18 日 (日) 13:00～17:30

場 所：日本看護科学学会事務所 (東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室)

出席者：理事 11 名 (Web 参加 1 名)、監事 2 名、第 34 回学術集会会長

〈確認事項〉

平成 25 年度第 6 回理事会議事録

平成 25 年度 3 月書面理事会議事録

〈報告および審議事項〉

1. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 35 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 平成 26 年 6 月定例社員総会について
 - 1) 平成 26 年社員総会資料、決算報告、監査報告の確認および承認
 - 2) 役割分担シナリオの確認
4. 総務会からの提案および審議事項
 - 1) 新名誉会員の推薦について
 - 2) 代議員の辞任等による、次点者の繰り上げ就任について
 - 3) 選挙に関する各種規程変更案の承認
 - 4) 選挙管理委員の委嘱
 - 5) 平成 25 年度決算の事業活動収入について
 - ① 公益目的事業積立金計上のための規程案の承認
 - ② 会費配分率に関する規程変更案の承認
 - 6) 外部講師への謝金規程変更案の承認
 - 7) 退職金規程変更案の承認
5. 第 4 回 JANS セミナー (6 月 29 日) の準備状況
6. 各委員会における今年度予算執行状況
7. 各委員会における事業の進捗状況
 - 1) 総務委員会からの報告
 - 2) 和文誌編集委員会からの報告
 - 3) 英文誌編集委員会からの報告
 - 4) 研究・学術情報委員会からの報告
 - 5) 国際活動推進委員会からの報告

- 6) 看護学学術用語検討委員会からの報告
 - 7) 看護倫理検討委員会からの報告
 - 8) 社会貢献委員会からの報告
 - 9) 表彰論文選考委員会からの報告
 - 10) 広報委員会からの報告
 - 11) 研究倫理審査委員会からの報告
 - 12) 災害看護支援事業専門委員会からの報告
 - 13) 学術振興事業検討委員会からの報告
 - 14) 他機関との連携について
 - ・ 日本看護系学会協議会、日本学術会議、その他
 - ・ 看護系学会等社会保険連合（看保連）
 - ・ 世界看護科学学会
8. 入会希望者の承認
9. その他

平成 26 年度第 2 回理事会

日 時：平成 26 年 6 月 29 日（日） 10：00～11：00

場 所：ベルサール神田（東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産神田ビル 3F）

出席者：理事 13 名、監事 1 名、

〈確認事項〉

平成 26 年度第 1 回理事会議事録

〈報告および審議事項〉

1. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 内閣府による立ち入り検査（運営組織、事業活動）の報告
3. 社員総会資料と役割分担シナリオの最終確認
代議員選出規程の変更部分（議案書 VII. その他 で理事長より説明）
4. 各委員会における事業の進捗状況
5. 入会希望者の承認
6. その他

平成 26 年度第 3 回理事会

日 時：平成 26 年 9 月 7 日（日） 13：00～17：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 12 名、監事 1 名、第 34 回学術集会会長、第 35 回学術集会会長、選挙管理委員会委員長

〈確認事項〉

平成 26 年度第 2 回理事会議事録

平成 26 年 6 月定例社員総会議事録

〈報告および審議事項〉

1. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 35 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の候補者選出
4. 平成 26 年度代議員選挙および平成 27 年選出役員候補者選挙
5. 「代議員及び役員候補者選出に関する申し合わせ」変更案
6. 11 月社員総会の議事次第（案）
* 平成 26 年 11 月社員総会の開催について
（欠席者の議決権の行使方法について）
7. 第 34 回学会総会の議事次第（案）
8. 第 4 回 JANS セミナーの実施報告
9. 各委員会における今年度予算執行状況
10. 各委員会における事業の進捗状況
11. 入会希望者の承認
12. その他

〈連絡事項〉

1. 委員会活動報告および活動計画・予算案の提出について
2. 2014 年 11 月／学術集会開催時期の各会議について

平成 26 年度第 4 回理事会

日 時：平成 26 年 10 月 13 日（日） 13：00～17：00（予定）

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名（Web 参加 2 名）、監事 1 名、第 34 回学術集会会長

〈確認事項〉

平成 26 年度第 3 回理事会議事録

〈報告および審議事項〉

1. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 35 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 37 回日本看護科学学会学術集会会長の承認
4. 「会計に関する申し合わせ」の変更案
5. 各委員会における平成 27 年度事業計画と平成 27 年度予算案

6. 11月社員総会の議事次第（案）とシナリオ確認
7. 第34回学会総会の議事次第（案）とシナリオ確認
8. 各委員会における事業の進捗状況
9. 入会希望者の承認
10. その他

〈連絡事項〉

- JANS34 関連出張／出欠・宿泊希望の一覧

平成26年度第5回理事会

日時：平成26年11月28日（金） 14：00～16：00

場所：ANAクラウンプラザホテル グランコート名古屋 6階 おしどり（名古屋市中区金山町1-1-1）

出席者：理事13名、監事2名、第34回学術集会会長

〈確認事項〉

平成26年度第4回理事会議事録

〈報告および審議事項〉

1. 第34回学術集会会長からの報告
2. 定款施行細則の改正について（「若手研究推進委員会」の新設）
3. 平成27年度役員候補者選挙における理事候補者の「理事会が定める定数」について
4. 平成26年11月社員総会資料の最終確認
5. 社員総会／議事進行および役割分担の最終確認
6. 第34回学会総会資料の最終確認
7. 学会総会／議事進行および役割分担の最終確認
8. 各委員会における事業の進捗状況
9. 入会希望者の承認
10. その他

公益社団法人日本看護科学学会 社員総会報告

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 11 月 27 日)

平成 26 年 6 月社員総会

日 時 平成 26 年 (2014 年) 6 月 29 日 (日) 11:30～14:00

場 所 ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産神田ビル 3F TEL:03-5281-3053

総社員数: 202 名

出席社員数: 156 名 (うち委任状 86 名)

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 第34回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶
- IV. 議長指名および議事録署名人の承認
- V. 報告事項
 1. 理事会および社員総会活動状況
 2. 総務報告
 3. 選挙管理委員会の委嘱
 4. 平成25年度事業報告
 - (1) 第 33 回日本看護科学学会学術集会開催
 - (2) 第 34 回・第 35 回日本看護科学学会学術集会準備
 - (3) 和文誌の発行
 - (4) 英文誌の発行
 - (5) 看護学学術振興対策
 - ① 看護学学術用語の検討
 - ② 国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む)
 - ③ 看護倫理の検討と啓発
 - ④ 研究成果の蓄積と活用
 - (6) 学術研究論文の表彰
 - (7) 学会組織の強化・発展
 - 1) 将来構想に基づく新たな事業計画
 - ・ 若手研究者育成のための新規事業
 - ・ 学術振興事業検討委員会の設立
 - ・ 学術振興事業の実施 (JANS セミナー等)
 - 2) 財務基盤安定化に向けての取り組み
 - ・ 学会誌の電子化準備
 - ・ 選挙の電子化
 - ・ 委員会等の遠隔会議システムの導入
 - ・ 受取会費配分率の変更
 - (8) 社会貢献活動
 - (9) 広報活動
 - (10) 災害看護支援事業 (日本看護系学会協議会との共同事業による)
 - (11) 他機関との連携活動
 - ① 日本看護系学会協議会
 - ② 看護系学会等社会保険連合
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の機関
 - (12) 理事選挙
- VI. 審議事項
 1. 平成25年度決算の承認および会計監査の報告
 2. 定款施行細則変更案 (会費配分率の変更案) の承認
 3. 名誉会員の承認
- VII. その他
- VIII. 閉会

総務報告

1. 会員推移（平成26年4月1日～平成26年10月31日）

1) 正会員数増減

①平成26年4月1日正会員数

7,184名＝平成26年3月31日正会員数7,612名－平成26年度資格喪失者428名
 （自主退会178名、会費未納 250名）

②平成26年度の入会者

829名＝新規入会730名＋再入会99名

③平成26年度の死亡喪失者

なし

2) 賛助会員増減

なし

3) 名誉会員増減

平成26年度承認

1名

中西 睦子

4) 平成26年10月31日現在 会員数

正会員 8,013

名誉会員 13

賛助会員 5

会員総数 8,031

山崎智子 松野かほる 氏家幸子 兼松百合子 林滋子
 飯田澄美子 日野原重明 稲岡文昭 樋口康子 薄井坦子
 中島紀恵子 小玉香津子 中西睦子

(株)医学書院 (株)へるす出版 (株)南江堂

(株)日本看護協会出版会 (有)ヌーヴェルヒロカワ

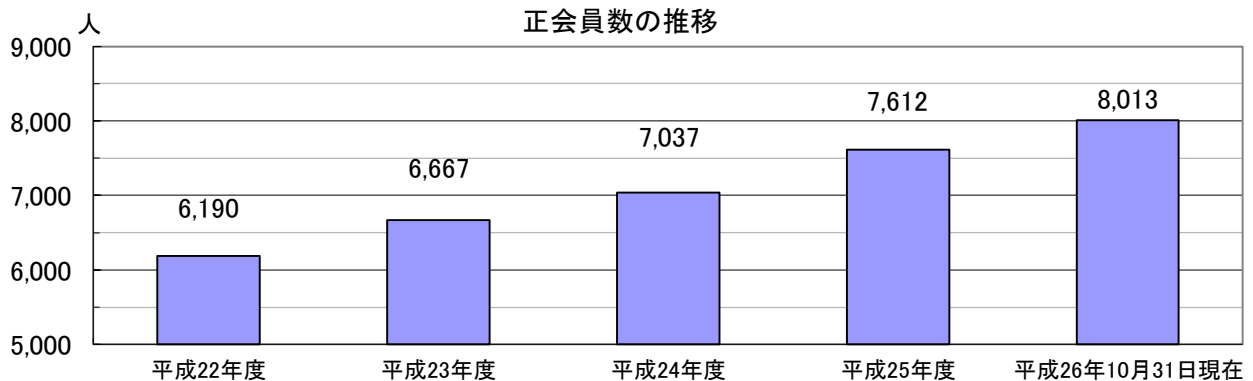
2. 地区別正会員数

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数		
北海道	北海道	352	北陸	富山	49	九州・沖縄	福岡	400		
				石川	111		佐賀	46		
東北	青森	129	東海	福井	52		長崎	52		
				岩手	44		熊本	74		
				宮城	140		大分	56		
				秋田	61		宮崎	62		
				山形	63		鹿児島	51		
関東A	茨城	122	近畿A	大阪	490		宛先不明者		48	
				兵庫	429					
				栃木	99		滋賀	109	合計	8,013
群馬	馬	144	近畿B	京都	206					
				埼玉	260	奈良	85			
関東B	千葉	350	中国・四国	和歌山	31					
				神奈川	474				鳥取	33
東京A	※1	589	925	島根	68					
				東京B	※2				648	岡山
甲信越	新潟	100								広島
				長野	109				山口	59
				山梨	85				徳島	62
									香川	80
									愛媛	71
									高知	145

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、口島しよ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域口

3. 正会員数の推移（年度別）



公益社団法人日本看護科学学会 平成26年度委員会名簿および分掌事項

委員会	役職	氏名	会務分掌
総務	委員長	高橋 眞理 和住 淑子 藤井 徹也	<ul style="list-style-type: none"> ・会員管理 ・入会審査 ・学会事務所の運営（総務会にて検討）
	委員	萱間 真美 吉沢 豊予子 浅野 みどり 和泉 比佐子 牛久保美津子 遠藤 淑美 大久保 暢子 佐伯 圭一郎 佐伯 由香 酒井 明子 佐藤 紀子 諏訪 さゆり 竹崎 久美子 田中 美智子 西川 浩昭 西村 真実子 野地 有子 林 千冬 眞嶋 朋子 三木 明子 宮本 有紀 山崎 あけみ 吉田 俊子 小野 智美	<ul style="list-style-type: none"> ・学会誌の完全オンライン化の実施と年1回の学会誌（冊子）発行（平成26年のみ） ・学会誌への投稿の促進 ・論文電子化に伴う著作権の整備（機関リポジトリへの対応） ・査読者の質向上を目的としたセミナー ・査読システムの改良 ・表彰論文選考への参画
和文誌編集	編集長	William L. Holzemer	<ul style="list-style-type: none"> ・英文誌（オンライン版）の出版（年4号） ・査読システムの整備 ・投稿論文促進のための広報活動 ・インパクトファクター向上のための活動 ・和文誌編集委員会との協働 ・表彰論文選考への参画 ・若手研究者支援事業の推進 ・投稿規程の改正
	委員	グレッグ美鈴 山本 あい子 安部 陽子 石原 逸子 和泉 成子 岡田 彩子 小澤 三枝子 北岡 和代 佐々木美奈子 田代 順子 永田 智子 中村 美鈴 野口 眞弓 深井 喜代子 法橋 尚宏 堀内 成子 前田 ひとみ 眞壁 玲子 丸山 昭子 江藤 宏美	
英文誌編集	委員長	吉沢 豊予子 岡谷 恵子 柏木 聖代 河野 あゆみ 高見沢 恵美子 奈良間 美保 西村 ユミ 深堀 浩樹 宮下 光令 跡上 富美	<ul style="list-style-type: none"> ・内外の看護学研究に関する情報の収集、整理、発信 ・研究成果が診療報酬に適切に反映できるような活動の推進
	委員	中山 洋子 近藤 暁子 近藤 麻理 清水 安子 田代 順子 南 裕子 神原 咲子	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・世界看護科学学会事務局業務
研究・学術情報	委員長	中山 洋子 近藤 暁子 近藤 麻理 清水 安子 田代 順子 南 裕子 神原 咲子	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・世界看護科学学会事務局業務
国際活動推進	委員	中山 洋子 近藤 暁子 近藤 麻理 清水 安子 田代 順子 南 裕子 神原 咲子	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・世界看護科学学会事務局業務
	会計	小野 智美	

委員会	役職	氏名	会務分掌
看護学学術用語検討	委員長 会計	小板橋喜久代 大森純子 大島弓子 柏木公一 佐藤和佳子 新田なつ子 山田覚 石丸美奈	・看護学学術用語に関する現状と展望の検討 ・看護学学術用語の維持管理システム構築に向けた検討
看護倫理検討	委員長 会計	麻原きよみ 安藤広子 小野美喜 小西恵美子 百瀬由美子 八尋道子 三森寧子	・看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応 ・研究者のモラル向上に向けた活動 ・看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応案の検討と社会に向けた見解の発信 ・研究倫理審査における異議申し立てに関する審議
社会貢献	委員長 会計	武田祐子 井上智子 近藤まゆみ 佐久間清美 福田紀子 宮下美香 山村美枝 藤屋リカ	・一般市民に向けた活動 ・看護学を通じた社会への貢献およびその方策の検討・普及 ・学術集会開催時の他に社会貢献の実績を残す (市民公開講座、出版等) ・次世代の育成事業
表彰論文選考	委員長 会計	宮崎美砂子 萱間真美 グレッグ美鈴 上野昌江 大塚真理子 神田清子 谷本真理子 本田彰子	・和文誌・英文誌投稿論文からの表彰候補論文選考作業の円滑な運営 ・学会としての表彰論文の推薦 ・看護学への功績(学問の体系化等)のある人への表彰についての検討 ・他団体からの表彰に該当する候補者の推薦
広報	委員長 会計	酒井郁子 清水安子 林直子 藤田冬子 渡辺かづみ 綿貫成明 黒河内仙奈	・ホームページ(JANS/WANS)の維持・管理・改善 ・学会活動の広報(委員会成果物のHP掲載等) ・学術集会の広報(プレスリリース等) ・WANS本部・WANS学術集会の広報 ・学術集会の記録
研究倫理審査	委員長 外部委員 外部委員 外部委員	田村やよひ 勝原裕美子 佐居由美 掛江直子 隈本邦彦 岩野正史	・学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査
若手研究推進委員会	委員長	吉沢豊予子 西村ユミ 河野あゆみ 綿貫成明 濱吉美穂 坂井志織 岩國亜紀子 大澤絵里 鳥本靖子	・学術会議若手アカデミー委員会のメンバーとなり、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。 ・学術集会の交流集会を定例的に企画・運営し、若手の研究活動の促進に努める。 ・若手研究者向けの研修に関するニーズ把握、及び学術情報や活動を周知する方法を検討する。
災害看護専門支援	委員長 会計	山本あい子 武田祐子 麻原きよみ 田中美恵子 佐々木吉子 駒形朋子	災害看護活動を支援するために以下の事項について協議及び審議を行う。 ・募金に関する事項 ・広報に関する事項 ・災害看護支援金の申請者等の選定の審査に関する事項 ・その他必要な事項
学術検討興事業	委員長 外部委員	田村やよひ 安酸史子 吉沢豊予子 太田喜久子 西村ユミ 古在豊樹	・今後の40周年に向けて、公益社団法人としての学術振興の中・長期的活動方針を企画検討する。 ・公益社団法人としての社会貢献に向けた公益事業を検討する。 ・アンブレラ学会として看護学の発展への貢献活動を検討する。 (平成25年4月1日より活動開始。2年間の時限的委員会)
選挙管理	委員長 副委員長 書記 庶務 庶務補佐	高木廣文 高野口眞弓 二宮啓子 岡美智代 桑名佳代子	・理事会からの委嘱により組織し、代議員および役員候補者選挙を行う。

委員会活動報告

1) 総務委員会

- ・ 入会審査の理事会報告、及び会員のデータ管理を行っている。会員管理については、オンラインシステム、会員自身のマイページの利用（延べ2,031件・平成25年11月1日～平成26年9月4日現在）ともに順調に稼働している。
- ・ 会員への迅速な情報伝達、また選挙のWeb化の運用等、登録されている会員のメールアドレスによる配信も活用されている。なお、現メールアドレスの登録状況は7,612件であり、郵送による問い合わせを行ったところ、昨年度より200件が送信可能となった。約200件がメールの到着が不確定のため、引き続き追跡調査を行っている。
- ・ 会員数は、8,031名（平成26年10月31日現在）であり、昨年度末7,612名より順調に増加している。
- ・ 学会事務所職員の勤務内容の把握、調整、面談を適宜行い、事務所ミーティングを定例で行った。
- ・ 定例社員総会準備を行った。
- ・ 各理事会、社員総会の議事の記録を担当した。
- ・ 事務所運営の効率化・適正化を図るため、事務所業務内容の再検討を開始した。

2) 和文誌編集委員会

- ・ 和文誌編集委員会を3回（平成25年12月6日、平成26年3月13日、11月29日）開催した。
- ・ 電子ジャーナル化に向けて、会員に意向調査を行った。調査内容は、電子ジャーナルを随時論文単位で刊行した場合、別刷および冊子体（論文集）の必要性と価格についてであり、調査表の配布7,635部、回収496部で回収率は6.5%であった。結果は、オンライン化後も6割以上の回答者が別刷を希望し、10部単位の販売で、価格は50~100円としていた。冊子体の購入は6割以上が不要と回答し、購入の場合は2,000~5,000円の価格を9割以上の回答者が希望していた。
- ・ 電子ジャーナル化に向けての打ち合わせを3回（平成25年9月24日、12月13日、平成26年7月14日）行った。
- ・ オンライン論文の迅速な随時掲載のための作業を適宜行った。
- ・ 論文種別を変更し、それに伴う投稿規程の改正（平成26年7月1日施行）を行った。
- ・ 学会誌への投稿の促進を行い、投稿数が平成23年度56論文、24年63論文、25年74論文に増加した。
- ・ 専任査読者の質の向上を目的としたセミナー「看護論文の質向上のためのPeer Review Work」、交流集会

「研究者を育てる査読コメントの書き方1-心に残る査読コメントの実例-」を開催した。

- ・ ホームページ「和文誌投稿論文 Q&A」を更新した。
- ・ 表彰論文選考に参画した。
- ・ 機関リポジトリへの掲載依頼に対応した。(1件)

3) 英文誌編集委員会

- ・ Holzemer 編集長が来日のもと、対面式の編集委員会を1回、TV 会議システムを用いた日本語での編集委員会を1回開催した。
- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.10 No.2 (2013年12月)を発刊し、7,640名に頒布した。さらに Vol.11 No.1~3 (9月末の時点)をオンラインで発刊した。
- ・ 2013年10月5日に啓発活動としてのセミナー“Improving Your Success at Publishing in English in 2013”を開催した。参加者183名で、好評であった。
- ・ 若手研究者支援事業を開始し、2編の助成対象論文を決定した。
- ・ 2013年度の impact factor は、0.488 と若干低下した(2014年7月発表による)。

4) 研究・学術情報委員会

- ・ 第4回 JANS セミナー「看護論文の質向上のための Peer Review Work」の企画を行った。
- ・ 「若手看護系研究者調査」を基に JJNS 英文誌に投稿し1本が受理された。また、JANS 和文誌にも投稿し、査読中である。
- ・ 第5回 JANS セミナー企画。

(JANS 若手アカデミー)

- ・ JANS 若手アカデミーのメーリングリストが活動開始した。
- ・ 第34回日本看護科学学会学術集会交流会の企画・打ち合わせを行った。
- ・ JANS 若手アカデミーの常置委員会化に向けて準備を行った。
- ・ 看護系学会等社会保険連合(看保連) 関連委員会に出席した。

5) 国際活動推進委員会 (世界看護科学学会を含む)

- ・異文化データベースを見直して情報の更新や修正を行い、活用しやすいものになるよう検討している。
- ・看護学のグローバルスタンダードや国際看護学教育のあり方について討議をしている。その過程でJANSにおける交流集会や国内教員に対して調査を行い、国際看護・国際保健に係る教員のネットワークを構築する予定である。

(世界看護科学学会 World Academy of Nursing Science : WANS)

- ・国際活動推進委員会は、JANS から WANS 理事会の理事長 (Chairperson, Board of Directors) を出しているために、WANS 事務局を担っている。平成 26 年度は、平成 27 年度 10 月にドイツ・Hannover で開催予定の第 4 回 WANS 学術集会 (会長 Meyenburg-Altward, Iris) の事務局と連絡を取り、準備を支援している。また、会員拡大のために、日本、タイ、中国等の学会や関連団体と連絡を取っている。
- ・WANS のホームページの内容を整理し、Greeting や過去の学術会議のアーカイブを中心に更新した。

6) 看護学学術用語検討委員会

- ・看護学学術用語検討委員会を 3 回開催した。
- ・本学会として継続的に学術用語の検討を進めていくために必要な学術用語維持・管理システムの構築を目指して組織案づくりを進めた。
- ・組織案がスムーズに機能するかを確認する作業として、具体的な用語を取り上げて、モデル作業を行った。
- ・これまでの学術用語に関する成果物への問い合わせがあり (4 件)、それぞれ検討し、対応した。

7) 看護倫理検討委員会

- ・看護倫理検討委員会を 2 回開催した。
- ・利益相反について、和文誌投稿規程における記載について検討し、和文誌編集委員会に提案した。また、本会における利益相反の取り扱いについて検討した。
- ・看護系大学および病院看護部の研究倫理審査委員会で扱う研究計画の種類と審査基準、および審査体制について、国内外の文献・資料の検討と専門家へのヒヤリングを実施・分析し、検討した。
- ・学術集会において、若手研究者のための研究倫理に関する交流集会を企画・実施した。

8) 社会貢献委員会

- ・活動の継続性、充実を図るため、委員の交代に合わせ、委員を増員した。

- ・ 第34回学術集会における企画について、メールによる検討を重ね、平成26年度第1回社会貢献委員会（7月6日開催）では、具体的内容の確認、役割分担を検討した。
- ・ 第34回学術集会企画委員会に参加し、本委員会による企画に関する連携を図った。
- ・ 第34回学術集会では、市民フォーラムのテーマを「口から食べるを支える技術―食べる幸せを繋ぐ看護のわぎ―」とし、摂食嚥下サポートの専門家による講演を企画した。高校生を対象としたナーシング・サイエンス・カフェは、テーマを「命を救う！食を助ける！看護師たち」とし文部科学省の後援申請を行い、2名の認定看護師による「食べる楽しみを支える看護」「ドクターヘリ フライトナースの役割」のリレートークと、小人数グループによる、摂食・嚥下障害看護認定看護師、救急看護認定看護師、フライトナースとのカフェトークの準備を進めてきた。また、広報委員会と連携し、企画の広報に努めた。
- ・ 企画開催当日（11月30日）に開催予定の第2回委員会では、実施準備最終確認を行い、次年度に向けて、意見交換を行う予定である。

9) 表彰論文選考委員会

- ・ 表彰論文選考委員会を3回（8月、9月及び10月）開催した（8月及び9月はメール審議、10月は対面会議とWeb会議を併用して実施した）。
- ・ 第1回委員会（8月12日）にて表彰論文選考方針、選考基準、選考手順を決定した。
- ・ 第2回委員会（9月6日）にて優秀賞候補4論文（和文3論文、英文1論文）および奨励賞候補4論文（和文3論文、英文1論文）を絞り込み、審査リストを作成した。これらについて、平成26年9月10日に全代議員202名に文書及びメールにて採点を依頼した。
- ・ 10月3日までに返信された60通について評価点の集計を行った（回収率29.7%）。
- ・ 第3回委員会（10月6日）にて集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞2編、奨励賞2編を決定し、理事会（10月13日）に報告し、承認を得た。

【優秀賞】

- （原著論文）中村幸代，堀内成子，柳井晴夫（2013）：妊婦の冷え症と微弱陣痛・遷延分娩との因果効果の推定―傾向スコアによる交絡因子の調整―、日本看護科学会誌、33(4)、3～12.
- （original article）Kiyomi ASAHARA, Wakanako ONO, Maasa KOBAYASHI, Junko OMORI, Yumiko MOMOSE, Hiromi TODOME and Emiko KONISHI（2013）：Ethical issues in practice : A survey of home-visiting nurses in Japan, Japan Journal of Nursing Science, 10(1), 98～108.

【奨励賞】

- (研究報告) 平野優子, 山崎喜比古 (2013) : 侵襲的人工呼吸器を装着した筋萎縮性側索硬化症患者の病い経験ーライフ・ライン・メソッドを用いた心理的状态のたどる過程と関連要因ー、日本看護科学会誌、33(2)、29～39.
- (original article) Yoshino WATANABE, Makoto OE, Yukie TAKEMURA, Minako SASAKI, Mami ONISHI, Katsuya KANDA and Hiromi SANADA (2013) : Four factor Research Awareness Scale for Nurses in Japanese: Instrument development study, Japan Journal of Nursing Science, 10(2), 232～241.

10) 広報委員会

- ・ 広報委員会は必要に応じてメール等により活動した。3月に委員会開催予定である。前年度に連携手順、業務マニュアルを作成したことにより、活動の効率化が行われたため、委員会開催数を減少することができた。
- ・ 第34回学術集会企画委員会との連携による広報活動を行った。具体的にはプレスリリース(新聞社、ラジオ局、テレビ局)、記録などである。
- ・ 社会貢献委員会との連携による、市民フォーラムおよびナーシング・サイエンス・カフェ広報媒体を作成した。
- ・ 広報活動に関するマニュアルおよび手順書を整備した。
- ・ 学会HPの内容の更新、整理を行った。

11) 研究倫理審査委員会

- ・ 審議すべき事案が申請されなかったため、委員会は開催されなかった。

12) 災害看護支援事業専門委員会

- ・ 平成25年度災害看護支援金による助成事業の募集を行い、20件の応募(助成希望額の総額は12,132,932円)があった中から、平成25年度災害看護支援事業専門委員が看護支援事業規程第7条並びに応募要項の採択基準に基づいて厳正に審査を行った結果、平成26年度分として以下の8件を採択した。助成金の総額は、4,710,000円(最高1,000,000円、最低290,000円)であった。

代表者氏名	題目
塚本 都子	通所施設利用者と介護家族の地震に対する意識と対策の現状を踏まえた、施設が実現すべき当事者主体の地域共助力推進に関する統合的協働型検討会
佐々木久美子	宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動の充実強化
川嶋みどり	「在宅におけるケアの有用性を高める」ための人材育成の取り組み
尾山とし子	これから始まる復興と絆、コミュニティ再建のための長期支援 Part2 ～はまってけらいん（集まって）かだってけらいん（語って）を合言葉に～
内海奈緒子	東日本大震災被災地の仮設住宅地区における高齢住民に対する健康支援プログラムの長期的効果に関する介入研究
大野かおり	兵庫県立大学・宮城大学看護東北プロジェクト 気仙沼市鹿折地区仮設住宅住民のセルフケア行動推進および健康ハイリスク住民への看護支援方策の検討
青木 萩子	応急仮設住宅生活が長期化する福島原発事故避難者の健康支援事業
北宮 千秋	被災地の長期避難を伴う自治体職員への健康相談とリスクコミュニケーション

- 平成 26 年 9 月末に事業の進捗状況について中間報告の提出を受け、事業が順調に実施されていることを確認した。
- 本事業は日本看護系学会協議会（JANA）との共催で実施しているため、平成 25 年度助成事業の最終報告書、収支報告書及び平成 25 年度助成事業の中間報告書を JANA に提出した。
- 【予定】第 34 回日本看護科学学会学術集会において交流集会を企画し、学会員への事業報告（H25 年度採択事業の中から 3 件）および本事業への認知度の更なる向上と、継続的な支援促進を目指す。

13) 学術振興事業検討委員会

- 研究・学術情報委員会と連携して、JANS 若手アカデミーに参加を希望する若手研究者のメーリングリスト作成支援と情報交換を促進。
- JANS 若手アカデミーの常置委員会化をすすめ、活動の継続性と日本学術会議若手アカデミーへの参加を促進することとしている。

14) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

- ・ 平成 26 年 6 月 30 日（月）、平成 26 年度総会が日本赤十字看護大学広尾キャンパスで開催され、理事長が出席した。総会において、一般社団法人化の承認が得られた。定款および定款施行細則、役員選出規程等の原案の説明があり、意見交換を行った。これらの意見をもとにさらに定款等を整備し、年内には再度総会が予定されている。
- ・ 第 34 回日本看護科学学会学術集会の折、シンポジウムを開催予定である。本会は例年通り、共催団体として支援する。

② 看護系学会等社会保険連合

- ・ 平成 26 年度看保連総会が 4 月 21 日に行われた。
- ・ 平成 26 年度の理事会は、6 月から 10 月までに 3 回開催された。特に第 1 回理事会(6 月 16 日)では、平成 27 年度介護報酬改定に向けた要望書(案)について議論を行い、加筆修正を行った。
- ・ 平成 26 年度診療報酬改定における看保連の成果について
看保連が提出した要望書の 35 項目中 9 項目、医療技術提案書の 23 項目中 4 項目を実現することができた。
- ・ 平成 26 年診療報酬改定に対する疑義解釈資料（その 1）（平成 26 年 3 月 31 日公示）のうち、「がん患者指導管理料 2」の算定要件となる看護師の研修に「皮膚・排泄ケア」が含まれていなかったため、研修内容に含めるよう要望した。
- ・ 「平成 27 年度介護報酬改定に向けての要望書」を平成 26 年 8 月 13 日に厚生労働省老健局老人保健課に提出した。
- ・ 平成 26 年 9 月 9 日(火)の 18 時 30 分から 20 時 30 分まで、聖路加国際大学において第 13 回三保連合同シンポジウムを開催した。今回は看保連が世話人となって企画し、実施した。テーマは「医療と介護の連携」で、診療報酬・介護報酬の観点から医療と看護と介護の連携とその促進について考えるという趣旨で行われ、看保連からは、林優子理事がプレゼンを行った。
- ・ 看保連加盟学会・団体に対して、次年度診療報酬並びに介護報酬改定に向けた意向調査を実施した。9 月 22 日に依頼文書を送付。

③ 日本学術会議

- ・ 日本学術会議から提供のあった日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

④ その他の機関

- ・ 対応すべき事案はなかった。

15) 選挙管理委員会

- ・ 選挙管理委員会を3回開催した。
- ・ 代議員選挙を以下の日程で電子投票にて行う。平成26年9月8日（月）公示、10月10日（金）選挙人名簿に関わる異動届の受付期限、11月下旬に投票要領等発送、平成27年1月13日（火）～27日（火）投票受付期間、1月29日（木）開票。
- ・ 役員候補者選挙を以下の日程で電子投票にて行う。平成27年3月2日（月）公示、3月16日（月）～29日（日）投票受付期間、3月30日（月）開票。

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 27 年度事業計画 (案)

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

1. 第 35 回日本看護科学学会学術集会開催
2. 第 36 回・第 37 回日本看護科学学会学術集会準備
3. 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage)
4. 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley)
5. 看護学学術振興対策
 - 1) 看護学学術用語の検討
 - 2) 国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む)
 - 3) 看護倫理の検討と啓発
 - ・学術活動の利益相反 (COI) に関する指針および細則の施行
 - 4) 研究成果の蓄積と活用
6. 学術研究論文の表彰
7. 学会組織の強化・発展
 - 1) 若手研究推進委員会の活動の推進
 - 2) JANS セミナー
 - 3) JJNS セミナー
8. 社会貢献活動
9. 広報活動
10. 災害看護支援事業 (日本看護系学会協議会との共同事業による)
11. 他機関との連携活動
 - 1) 日本看護系学会協議会
 - 2) 看護系学会等社会保険連合
 - 3) 日本学術会議
 - 4) その他の機関

平成27年度 収支予算書
平成27年4月 1日 から平成 28年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成27年度 予算額 (H. 27. 4. 1～ H. 28. 3. 31)	平成26年度 予算額 (H. 26. 4. 1～ H. 27. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	1,000	0
特定資産受取利息収入		1,000	1,000	0
②会費収入		85,700,000	79,800,000	5,900,000
正会員会費収入	※1	85,400,000	79,500,000	5,900,000
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入（講演集含む）	※3	340,000	2,150,000	△ 1,810,000
④寄附金収入（学術集会含まず）		500,000	1,000,000	△ 500,000
災害看護支援寄附金収入		500,000	1,000,000	△ 500,000
その他の寄附金収入		0	0	0
⑤雑収入		4,403,000	4,403,000	0
受取利息収入		3,000	3,000	0
著作権料収入		100,000	100,000	0
セミナー収入	※4	4,300,000	4,300,000	0
その他雑収入		0	0	0
④学術集会収入		40,128,600	41,064,800	△ 936,200
学術集会参加費収入		31,550,000	32,350,000	△ 800,000
事前登録会員（10,000円）		14,000,000	13,000,000	1,000,000
事前登録非会員（12,000円税込）		3,600,000	5,400,000	△ 1,800,000
学部生（4,000円）	※5	600,000	150,000	450,000
当日登録会員（12,000円）		8,400,000	9,600,000	△ 1,200,000
当日登録非会員（14,000円税込）		4,200,000	4,200,000	0
当日登録学部生（5,000円）		750,000	-	
寄附金・助成金収入		550,000	350,000	200,000
広告販売収入		7,388,600	7,624,800	△ 236,200
企業展示出展料		2,692,000	3,412,800	△ 720,800
広告掲載料		3,271,000	2,484,000	787,000
スポンサーセミナー		1,425,600	1,728,000	△ 302,400
懇親会収入		640,000	640,000	0
雑収入		0	100,000	△ 100,000
事業活動収入合計（I a）		131,072,600	128,418,800	2,653,800
2. 事業活動支出				
①事業費支出		79,307,020	81,165,400	△ 1,858,380
学会誌発行費支出		18,270,000	22,910,000	△ 4,640,000
和文誌編集・印刷費支出	※6	3,770,000	7,200,000	△ 3,430,000
和文誌発送費支出		0	1,830,000	△ 1,830,000
英文誌編集費支出	※7	14,500,000	13,880,000	620,000
英文誌発送費支出		0	0	0
編集活動費支出		3,613,000	3,113,000	500,000
和文誌編集委員会費支出	※8	830,000	580,000	250,000
英文誌編集委員会費支出	※9	2,783,000	2,533,000	250,000
看護学術振興費支出		6,221,000	5,084,100	1,136,900
看護学学術用語検討委員会費支出	※10	1,134,000	854,000	280,000
国際活動推進委員会費支出	※11	2,295,000	800,000	1,495,000
看護倫理検討委員会費支出		500,000	780,000	△ 280,000
研究・学術情報委員会費支出		422,000	453,100	△ 31,100
表彰論文選考委員会費支出		220,000	220,000	0
災害看護支援事業専門委員会支出		150,000	172,000	△ 22,000
学術振興事業検討委員会	※12	0	305,000	△ 305,000
若手研究推進委員会	※13	500,000	0	500,000
災害看護支援助成金支出	※14	1,000,000	1,500,000	△ 500,000
研究学術活動費支出		3,420,000	2,240,000	1,180,000
受賞論文表彰費支出		180,000	170,000	10,000
研究倫理審査委員会費		120,000	120,000	0
セミナー等開催費	※15	3,120,000	1,950,000	1,170,000
社会的活動費支出		745,000	929,000	△ 184,000
社会貢献委員会支出（市民フォーラム開催費含む）		745,000	929,000	△ 184,000
総務費支出		1,370,000	1,147,000	223,000
総務委員会費支出		450,000	400,000	50,000
広報委員会費支出		920,000	747,000	173,000

科 目	備考	平成27年度 予算額 (H. 27. 4. 1～ H. 28. 3. 31)	平成26年度 予算額 (H. 26. 4. 1～ H. 27. 3. 31)	差異
学術集会費支出		45,668,020	45,742,300	△ 74,280
当年度開催学術集会		42,457,460	43,242,300	△ 784,840
会場費支出		18,150,000	20,796,000	△ 2,646,000
会議費支出		1,888,500	735,000	1,153,500
旅費交通費支出		2,350,000	1,400,000	950,000
消耗品費支出		427,560	452,000	△ 24,440
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,484,760	1,603,500	△ 118,740
印刷製本費支出(プログラム印刷含む)		6,594,840	8,405,500	△ 1,810,660
委託費支出		7,020,000	6,880,300	139,700
人件費支出		483,000	0	483,000
謝金支出		1,470,000	600,000	870,000
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		50,000	140,000	△ 90,000
雑支出		1,538,800	1,270,000	268,800
懇親会運営費支出		1,000,000	960,000	40,000
次年度開催学術集会(準備期間)		3,210,560	2,500,000	710,560
会場費支出		0	0	0
会議費支出		70,000	50,000	20,000
旅費交通費支出		600,000	500,000	100,000
消耗品費支出		100,000	10,000	90,000
通信運搬費支出(パンフレット送料含む)		1,113,560	770,000	343,560
印刷製本費支出(パンフレット印刷含む)		1,077,000	1,010,000	67,000
委託費支出		0	160,000	△ 160,000
人件費支出		200,000	0	200,000
謝金支出		0	0	0
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑支出		50,000	0	50,000
懇親会運営費支出		0	0	0
②管理費支出		47,820,000	45,412,000	2,408,000
給料手当支出	※16	18,980,000	16,530,000	2,450,000
通勤費支出		2,200,000	2,440,000	△ 240,000
福利厚生費支出	※17	2,415,000	1,932,000	483,000
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費		300,000	200,000	100,000
社員総会費	※18	3,260,000	2,880,000	380,000
理事会費		2,210,000	2,360,000	△ 150,000
委託費支出	※19	4,910,000	4,100,000	810,000
渉外費支出		30,000	30,000	0
旅費交通費支出	※20	430,000	280,000	150,000
通信運搬費支出		2,390,000	2,132,000	258,000
消耗品費支出		1,200,000	1,090,000	110,000
印刷製本費支出		130,000	86,000	44,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		730,000	660,000	70,000
賃借料支出	※21	4,957,000	4,580,000	377,000
保険料支出		8,000	8,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出	※22	570,000	570,000	0
負担金支出	※23	150,000	150,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
選挙費用支出		220,000	2,670,000	△ 2,450,000
資格喪失者会費支出		1,000,000	1,000,000	0
雑支出		1,280,000	1,264,000	16,000
事業活動支出合計(I b)		127,127,020	126,577,400	549,620
事業活動収支差額(I a)-(I b)		3,945,580	1,841,400	2,104,180

科 目	備考	平成27年度 予算額 (H. 27. 4. 1～ H. 28. 3. 31)	平成26年度 予算額 (H. 26. 4. 1～ H. 27. 3. 31)	差異
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入		1,520,000	4,470,000	△ 2,950,000
選挙積立取崩収入		220,000	2,670,000	△ 2,450,000
退職給付引当資産取崩収入		300,000	300,000	0
災害看護支援資産取崩収入		1,000,000	1,500,000	△ 500,000
②その他投資活動収入		0	105,000	△ 105,000
長期前払費用振替収入(事務所更新料)		0	105,000	△ 105,000
投資活動収入合計(Ⅱa)		1,520,000	4,575,000	△ 3,055,000
2. 投資活動支出				0
①特定財産取得支出		2,800,000	3,100,000	△ 300,000
選挙積立預金支出		1,500,000	1,500,000	0
退職給付引当資産取得支出		800,000	600,000	200,000
災害看護支援資産取得支出		500,000	1,000,000	△ 500,000
②固定資産取得支出		100,000	100,000	0
什器備品購入支出		100,000	100,000	0
③その他投資活動支出		105,000	0	105,000
長期前払費用取得支出(事務所更新料)		105,000	0	105,000
投資活動支出合計(Ⅱb)		3,005,000	3,200,000	△ 195,000
投資活動収支差額(Ⅱa)-(Ⅱb)		△ 1,485,000	1,375,000	△ 2,860,000
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計(Ⅲa)		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計(Ⅲb)		0	0	0
財務活動収支差額(Ⅲa)-(Ⅲb)		0	0	0
Ⅳ 予備費支出		3,000,000	3,000,000	0
当期収支差額		△ 539,420	216,400	△ 755,820
前期繰越収支差額		56,145,690	55,929,290	216,400
次期繰越収支差額		55,606,270	56,145,690	△ 539,420

- ※1 平成27年4月1日時点での会員数を8,100名、新入会者・再入会者840名、資格喪失者400名と見積もり、合計請求人数を8,540名として計上
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版・ヌーヴェルヒロカワ各1口。会費1口50,000円。
- ※3 日本看護科学会誌の完全電子化およびフリーアクセス化。
- ※4 JJNSセミナー受講料(130万)、JANSセミナー受講料(100万×3回)での見積り。
- ※5 学部生の参加費を4,000円とした。
- ※6 日本看護科学会誌(電子ジャーナル)の組版、電子ジャーナル対応経費、編集関連経費、学術集会講演集定期購読等販売用印刷製本費。電子化により発送費はなし。
- ※7 JJNS(Online Journal)の編集費、オンライン投稿利用料、編集事務費、英文誌編集長謝金(旅費交通費を含め年間200万円)
- ※8 編集委員・査読者支援の教育プログラム(セミナー、交流集会)を含む。
- ※9 英文誌編集委員会企画セミナー、若手研究者支援事業に関わる経費支出を含む
- ※10 看護学学術用語の維持管理システム(定期的見直し・更新あり)の運用を含む。
- ※11 世界看護科学学会(WANS)事務局業務、第4回学術集会(Hannover)サポートを含む。
- ※12 2年間の時限的委員会につき、事業完了。
- ※13 新設の常置委員会として設置
- ※14 災害看護支援事業への寄付金を活用し、助成および広報活動を行う。
- ※15 JANSセミナーの一部外注化を予定。
- ※16 正職員3名、パート職員5名(週1日～3日勤務)の給与・賞与を含む。総務担当正職員1名の増員を予定。
- ※17 社会保険料の増額分を反映。
- ※18 定例理事会6回(5月、6月、9月、10月、12月、2月)、社員総会2回(6月、12月)民間会議場使用、学会総会1回(12月)学術集会会議場使用。
- ※19 会計顧問料、公認会計士監査報酬、事務所警備委託費、封入委託費、会員管理システム利用料(学術集会参加登録システム・行事管理システムを含む)、JANSホームページ年間維持更新管理料、ホームページ英訳費用、Web会議システム。
- ※20 事務所職員の出張に伴う交通費(5名分)。通勤費は「通勤手当」費目にて別途計上。
- ※21 事務所賃借料、カラー印刷機リース料、紙折り機リース料、レーザープリンタ複合機リース料。
- ※22 収益事業(学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入)に関わる法人税および法人事業税は0円、法人住民税約7万円(均等割分のみ)。消費税課税売上高(学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など)に係る消費税(簡易課税方式)。
- ※23 日本看護系学会協議会8万円、看護系学会等社会保険連合7万円

平成27年度 収支予算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日

公益社団法人 日本看護科学学会

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
受取会費											
正会員受取会費					25,620,000	25,620,000				59,780,000	85,400,000
賛助会員受取会費					300,000	300,000					300,000
事業収益											
学会誌収益(講演集含む)		340,000				340,000					340,000
学術集会参加費			31,550,000			31,550,000					31,550,000
広告販売収入							7,388,600		7,388,600		7,388,600
寄付金・助成金	500,000		550,000			1,050,000					1,050,000
雑収益											
受取利息										4,000	4,000
著作権料										100,000	100,000
懇親会収入										640,000	640,000
セミナー収益	3,000,000	1,300,000				4,300,000					4,300,000
その他の雑収入											
経常収益計	3,500,000	1,640,000	32,100,000		25,920,000	63,160,000	7,388,600		7,388,600	60,524,000	131,072,600
①事業費											
学会誌発行費		18,270,000				18,270,000					18,270,000
受賞論文表彰費		180,000				180,000					180,000
災害看護支援助成金	1,000,000					1,000,000					1,000,000
会場費	904,000	715,000	17,832,863	180,000		19,631,863	317,137		317,137		19,949,000
会議費	452,000	180,000	1,924,279	45,000		2,601,279	34,221		34,221		2,635,500
旅費交通費	3,555,821	1,185,686	2,935,854	273,867		7,951,228	54,092	4,406	58,498		8,009,726
消耗品費	350,546	134,590	622,714	40,792		1,148,642	16,322	12,295	28,617		1,177,259
通信運搬費	564,214	278,350	2,760,792	141,495		3,744,851	59,549	24,488	84,037		3,828,888
印刷製本費	234,434	120,789	7,549,096	101,169		8,005,488	134,821	1,332	136,153		8,141,641
委託費	3,262,861	1,137,490	7,447,054	144,159		11,991,564	29,066	50,307	79,373		12,070,937
人件費(学術集会・委員会)	160,000	150,000	671,066	40,000		1,021,066	11,934		11,934		1,033,000
諸謝金	450,000	680,000	1,470,000	280,000		2,880,000					2,880,000
雑費	330,583	109,230	1,672,369	41,512		2,153,694	35,338	13,115	48,453		2,202,147
租税公課			332,420			332,420	223,873		223,873		556,293
通勤手当	413,502	182,582	191,348	19,786		807,218	13,024	22,541	35,565		842,783
退職給付費用	152,883	67,506	70,747	7,315		298,451	4,815	8,334	13,149		311,600
福利厚生費	453,912	200,425	210,048	21,720		886,105	14,296	24,744	39,040		925,145
光熱水料費	137,207	60,584	63,493	6,565		267,849	4,321	7,480	11,801		279,650
賃借料	931,695	411,390	431,142	44,581		1,818,808	29,345	50,789	80,134		1,898,942
修繕費	9,397	4,150	4,349	450		18,346	296	512	808		19,154
火災保険料	1,504	664	696	72		2,936	47	82	129		3,065
減価償却費					26,836	26,836					26,836
給料手当	3,680,524	1,625,137	1,703,162	176,112		7,184,935	115,922	200,634	316,556		7,501,491

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
②管理費											
懇親会費										1,000,000	1,000,000
学会総会費										300,000	300,000
社員総会費										3,260,000	3,260,000
理事会費										2,210,000	2,210,000
会場費											
会議費										55,000	55,000
旅費交通費										945,274	945,274
消耗品費										740,301	740,301
通信運搬費										1,499,432	1,499,432
印刷製本費										80,199	80,199
委託費										3,029,063	3,029,063
人件費(委員会)										300,000	300,000
諸謝金										50,000	50,000
雑費										789,653	789,653
租税公課										13,707	13,707
通勤手当										1,357,217	1,357,217
退職給付費用										501,800	501,800
福利厚生費										1,489,855	1,489,855
光熱水料費										450,350	450,350
賃借料										3,058,058	3,058,058
修繕費										30,846	30,846
火災保険料										4,935	4,935
減価償却費										45,120	45,120
渉外費										80,000	80,000
慶弔費										50,000	50,000
支払負担金										150,000	150,000
支払寄付金											
給料手当										11,478,509	11,478,509
経常費用計	17,045,083	25,693,573	47,893,492	1,564,595	26,836	92,223,579	1,098,852	421,808	1,520,660	32,969,319	126,713,558
当期経常増減額	-13,545,083	-24,053,573	-15,793,492	-1,564,595	25,893,164	-29,063,579	6,289,748	-421,808	5,867,940	27,554,681	4,359,042
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計											
(2) 経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額					5,903,288	5,903,288	-5,903,288	0	-5,903,288		
税引前当期一般正味財産増減額	-13,545,083	-24,053,573	-15,793,492	-1,564,595	31,796,452	-23,160,291	386,460	-421,808	-35,348	27,554,681	4,359,042
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	-13,545,083	-24,053,573	-15,793,492	-1,564,595	31,796,452	-23,160,291	316,460	-421,808	-105,348	27,554,681	4,289,042

- 注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。
- 注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合（面積割合や従事割合など）に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。
- 注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」、「資格喪失者会費支出（貸倒損失）」、「投資活動収支」、「予備費」は本予算書には算入しない。
- 注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用（要積立額）」を本予算書に計上している。

第 37 回日本看護科学学会学術集会会長の承認について

- ・ 第 37 回（平成 29 年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者

吉沢 豊予子 （東北大学）